

横浜市旭区長 殿

【横浜市旭区民文化センター】
令和 7 年度 事業報告書

横浜メディアアド・相鉄・神奈川共立 共同事業体

〔 横浜市旭区民文化センター 〕
令和 7 年度事業報告書
〔 横浜メディアアド・相鉄・神奈川共立 共同事業体 〕

施設の概要

施 設 名	横浜市旭区民文化センター サンハート
所 在 地	横浜市旭区二俣川一丁目 3 番地
構造・規模	鉄骨コンクリート造 地下 1 階地上 6 階建の、地上 5 階および 6 階の一部を専有
敷地・延床面積	専有面積 2,564 m ²
開 館 日	平成 2 年 8 月 4 日

指定管理者

法 人 名	横浜メディアアド・相鉄・神奈川共立 共同事業体 代表構成団体 株式会社横浜メディアアド
代表団体所在地	横浜市神奈川区栄町 5 番地 1
代表団体代表者	代表取締役社長 三浦彰久
代表団体設立年月日	昭和 58 年 1 月 22 日
指 定 期 間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで

1 基本方針

(1) 基本的な方針

地域コミュニティの中心的な施設として、地域に交流と活性を生み出す地域のハブ的な役割を果たすことを目的とする。多くの区民に、良質な文化芸術に触れる機会を提供し主体的に区民が文化芸術に関わる場を提供する。中でも区民が直接的に文化芸術に関わり、互いに交流できる参加型や地元企業や学校、商店街、アーティスト等と連携する地域一体型の事業に重点を置いて展開する。そしてすべての活動の基盤である施設については、利用者・来館者が安心して利用できるよう安全性の確保を第一義とし、利用者・来館者の立場に立った施設運営を心掛けた。

実施方針

① 地域のネットワークを形成し、活用する

地域の様々な施設や団体と連携し、これまでの運営で培った地域との関係性やそのノウハウを活かしてネットワークづくりを推進する。また、地域のつながりをつくるコーディネーターとしても責任をもって機能し、文化的コモンズの形成を牽引した。

② ワークショップ型事業で区民の交流を促進、担い手を育成する

文化芸術活動に興味関心を抱いた区民をさらなる「鑑賞者」「活動者」「運営者」に育成していくことと、区民の交流を主眼に多様なワークショップ型の事業を実施する。複数回で 1 クールとなるような継続的な事業を中心に、文化芸術の体験やスキル・ノウハウのアップの機会を提供

し、区民同士の交流やつながりを創出した。

③ ユーザビリティの検証と利用者拡大のための各種サービスを検討する

利用者・来館者の立場にたった使いやすい施設運営を行う。これまでのサービス体系も見直し、時代にあったサービスの導入や利用規則の見直しなど、利用者等の意見や要望を吸い上げつつ、利用者拡大の改善策として横浜市・旭区と検討していた。

④ 幅広いジャンルにわたる文化芸術への接触機会を提供する

区民が日常的に文化活動を行う場の提供として、公共性・公平性をもって誰もが利用しやすい環境を整備する。担い手の育成という観点から、特に「練習」「学習」での利用を促進していた。

⑤ オンライン施策の導入と環境整備を進める

令和 6 年度に実施したホームページの改修内容を更に精査し、新たな SNS 導入の検討や動画配信などインターネットを使った施策に積極的に取り組む。マーケティングリサーチに X（旧 Twitter）を活用するなど SNS の新しい使い方を検討し、既存のアカウントも有効に活用していた。

⑥ 安全・安心を優先して運営する

法令等に定められた保守・点検や日常的な保守・維持管理は当然ながら、誰もが心から文化芸術を満喫できる施設を目指して施設運営を行う。また SDGs の観点からも、環境保全・健康等へ配慮した管理運営に努めた。

(2) 令和 7 年度の位置づけ

1. 事業の方針

令和 7 年度は、サンハートは開業 35 周年を迎えます。長年の経験と信頼を礎に、継続と未来に向けた新しい挑戦を続けていきます。ビル全体がリニューアルされ新たな来場者が期待出来る状況を活用しながら、「文化芸術活動は人々や社会全体の健康、幸福にとって不可欠なもの」という意識を念頭に、区民が期待する事業を展開していくと共に、当館の事業と親和性が高い同じビル内に位置する(株)相鉄ビルマネジメントが行っている相鉄沿線エリアマネジメントと協業に力を入れ、二俣川他でのアウトリーチ活動に注力し、情報発信を強化すると共にサンハートの知名度向上に努めていました。

1. 広報活動

リニューアルをしたホームページ改修の認知度を上げていくと共に、これまで以上に快適な環境を提供し、各種 SNS の有効活用によりきめ細かな情報発信に努めた。

■SNS 活用例

1) HP

館の全ての情報を包括的に分かり易く掲載

2) Instagram

親子向けイベント（未就学児イベントや小学生向けイベント等）を中心に掲載

3) X（旧 Twitter）

一般層（20 代～60 代）向けイベントや、館からのお知らせ全般

4) YouTube

自主事業に関するワークショップ参加者へ限定配信

2. 活動内容

区民に好評で定着している人気コンテンツは継続し、一方で新たな利用層を掘り起こす為の新規事業にも積極的に取り組む。

主な事業として、下記コンテンツを実施予定

- ・ 育成事業である「アンサンブルコンクール」を実施し、最優秀賞受賞者によるコンサート
- ・ 根強い人気で固定ファン層が付いている落語「あさひ亭まねき寄席」の開催
- ・ 未就学児向け、シニア向けと年齢層に合わせた「小規模ワークショップ」を年間を通し開催
- ・ 低料金で良質な音楽を提供する「ワンコインコンサート」
- ・ 地元企業と連携するアウトリーチ事業
(相鉄グループとの連携による相鉄沿線でのアウトリーチ活動の継続)。

2. 運営の方針

1. 利用者にとって使いやすい施設の実現

公共の施設として、誰にとっても利用がしやすい公平性のある対応を基本とし、効率性にも配慮した対応を行った。

2. 利用許可における公共性・公平性の確保

更新された「横浜市民利用施設予約システム」(以下「予約システム」という。)を的確に運用し、公共性・公平性の確保に努める。新たに導入された「オンラインキャッシュレス・窓口キャッシュレス」の運用に細心の注意を払うとともに利用内容、利用日数などの調整にあたっては、公共性・公平性に十分配慮し、より多くの利用者に施設を利用いただけるようにした。

3. 適切かつ確実な業務体制の維持

受付貸出業務については、「施設運営マニュアル」「予約システム運用マニュアル」等を整備し、全職員・スタッフが統一のとれた対応を行う。受付窓口では利用状況に応じて事務室職員も窓口業務を行うことで適切で確実な利用者対応をした。

4. 利用状況の集計・分析

「予約システム」を活用し、施設利用者を定期的に集計・分析し、利用者サービスに繋げる。また、旭区所管課にモニタリング等を通じて報告、情報を共有し、貸出業務の改善を進めていた。

3. 管理の方針

旭区民文化センターは開館して35年経過している。施設維持保全管理を行っていくうえで設備

の経年劣化など突発的な不具合が生じる可能性が高くなることが想定されるため、ビルメンテナンスのスペシャリストとして豊富な実績やノウハウを活かして施設を維持管理をした。区民に末永く施設を利用いただけるよう施設の長寿命化を目指す。

1. 一体管理によるスケールメリット

構成団体である相鉄企業は、旭区民文化センターが設置されている二俣川駅北口共同ビルの管理組合事務業務、建物維持管理業務を受託しているため、旭区民文化センターも併せた一体管理が可能で、スケールメリットを最大限に活かした維持管理業務を実現した。

2. 設備管理業務

予防保全を第一に日常点検を行う。五感を駆使した点検や検針値による数値の確認により、異臭、異音、異常な温度など、異変をいち早く察知するよう心掛けた。

専門業者による定期点検も実施し、日常点検だけではわからない設備の状況を把握した。

これらの点検内容を日々検証し、維持管理計画の見直しを行った。

3. 安全衛生

利用者や従業員の安全を確保することを第一に考え、警備・清掃を行う担当者は、常日頃から感染予防の重要性を認識して業務を行った。また、適切な感染防止対策を実施することが事業の継続性確保につながることを認識して業務に取り組んだ。

2 自主事業に関する計画

(1) 文化事業の企画および実施について

事業カテゴリーは大分類として「鑑賞事業」「交流事業」「創造事業」の3つに分け、中分類として5つに、更に小分類として7つのカテゴリーに分けて計画、実施していく。

大分類	中分類	小分類	イベント名
鑑賞事業	プロフェッショナルな芸術家による文化芸術の創造・発信	個性的な公演事業	● 今井亮太郎ボサノバコンサート ● 大橋エリガラスハープコンサート ● あさひ亭まねき 寄席
	未来への架け橋となる地元・若手アーティストの育成・普及	アーティストの支援	● 最優秀賞受賞者記念コンサート ● ワンコインコンサート ● アンサンブルコンクール
交流事業	地域の共生拠点・文化の発信地	文化芸術と社会的包摂	● アウトリーチ ● オープンデー
		子供の芸術体験を支援	● 読み聞かせ ● すくすくキッズプログラム ● 夏休み子ども体験講座
		地元との連携	● あさひ名画座企画委員
創造事業	サンハートによるプロモーション事業	参加をして楽しむ	● ゴスペルワークショップ ● 小規模ワークショップ
	その他・シーズン企画	その他・シーズン企画	● ホールでピアノ

	取組内容	達成指標	実施内容	達成状況
鑑賞事業	プロフェッショナルな芸術家による文化芸術の創造・発信			
	<個性的な公演事業> □ トップレベルのアーティストによるサンハートならではの個性的な公演を開催する。	□ 相鉄線直通線の増加、遠方の方や社会人など普段サンハートを訪れない新規層獲得に向けてもアプローチしていく。	□ 開館35周年記念公演として、過去主催公演に出演していただき、好評をいただいた今井亮太郎氏、大橋エリ氏を招き開催。	□ 世代を越えて楽しめる音楽に、三世代での来場のほか、地域の方々に改めて館の存在を知ってもらいきっかけとなり、その後の公演も足を運んでいただける結果となった。
	未来への懸け橋となる地元・若手アーティストの育成・普及			
	<アーティストの支援> □ アーティストが音楽活動を通じて社会貢献ができる仕組み作りをするために、人材育成をする。	□ アンサンブルコンクールにて若手アーティストを発掘し、サンハートの顔として館内公演やアウトリーチ活動など幅広く出演依頼をする。	□ アンサンブルコンクールでは、全組レベルの高い演奏家が集まった。また前年度のコンクール受賞者が最優秀賞受賞記念コンサート、ワンコインコンサートに出演した。	□ 最優秀賞に「ヒナゲシ」の公演では、クラシックを堪能できる大人向け公演のみ実施。現役大学生という若き才能に満足度の高いお客様のアンケート結果を得た。
交流事業	地域の共生拠点・文化の発信地			
	<文化芸術と社会的包摂> □ 活力ある地域社会の実現のために、文化芸術を通して人との繋がりや地域の結束を強めるほか、社会参加の機会を拡充し、地域コミュニティの発展につながる運営を行う。	□ 地域や依頼内容の特性に応じた配慮あるニーズを探る。あらゆる人が音楽・芸術を通して交流できる様々なコンテンツを引き続き提供していく。	□ オープンデーは参議院選挙期日前投票の関係で実施なし。 □ アウトリーチは、毎年継続的に実施している保育園と老人施設等から依頼があった。	□ アウトリーチから当館の公演やアーティストの公演に足を運ぶなど、アウトリーチ活動が評価だけでなく、地域の方々の音楽への関心が高まっているように感じる。
	<子供の芸術体験を支援> □ 次世代の芸術文化の担い手である子供たちに対し、芸術を通して共生社会の中で書くことのできない想像力や思考力、コミュニケーション能力などの自己表現能力を	□ 未就学児・小学生向けなど発達段階に応じた鑑賞プログラムや創作活動の機会を設け、子供たちの可能性を広げると同時に、成長過程で知識を育める事業展開をア	□ 夏休み子ども体験講座は、参議院選挙期日前投票の関係で実施なし。 □ 年間を通して「おやこリトミック」を実施。	□ 0歳～2歳までの親子を対象としたイベントを開催することにより孤育てにならない、アットホームな講座を開催した。殆どの方はリピーターとして何度か参加してくれ、子供の

	養うため、文化芸術を享受できる環境づくりを整える。	プローチしていく。	□「子鉄コン」「しましま★クリスマスパレード」など電車に特化した公演や季節に合わせた公演を実施。	成長で卒業されていくのが印象的なイベントであった。 □親子向け公演は、気軽に参加できるコンサートとして好評をいただけてだけでなく、コンサート前後は周辺の飲食店などにもぎわいを見せる結果となった。次年度は、チケットサービスなどで飲食店と協力できるよう努めていきたい。
	<地元との連携> □ あさひ名画座シリーズにおいては、引き続き地域の方々を中心とした実行委員方式をとり、地域の特性に応じた配慮あるニーズを共に探っていく。	□ 事業の企画・実施及び広報など多岐に渡る運営を「あさひ名画企画委員」に委ね、地域コミュニティの一つとして確立させる。	□ 昨年好評だった、1日2本違う作品上映を年間を通して実施した。また、新規客層を狙い夜間の上映会も実施。	□ 設営時の効率とお客様の反応が良く、2本上映を年間通して行ったが、1日1本で定期的な開催を望む声が非常に多かった。また、夜間の上映会は、普段の客層と異なり、新規客層獲得に繋がる結果となった。
創造事業	サンハートによるプロモーション事業			
	<参加をして楽しむ> □ 参加者同士が一つの体験を共有し、意見交換や、対話をする機会を設けることにより、コミュニティに活力を与え、社会との距離を近づける。	□ 小規模ワークショップとして、シニア向けのヨガ、エクササイズ、合唱を開催。子供向けにダンスワークショップを開催。また好評いただいているゴスペルワークショップは親子クラスを新設し3コースでの開催となる。	□ 演劇ワークショップは、講師とのスケジュールの関係で実施なし。 □ ゴスペルワークショップは今年で4年目となり、講師は金井恵梨香氏を招いて開催。 □ 年間を通して、高齢者の健康を意識した「座ってできるエクササイズ」「シニア合唱部」を開催。 □ 小学生向けのダン	□ 演劇ワークショップと同様、申込方法を先着順から抽選制に行ったせいか新規の申込が増え、過去継続者の出来上がった雰囲気ではなく、新鮮で円滑な雰囲気で開催することが出来た。満足度も高く次年度も引き続き開催が決定している。 □ 年間を通して開催した「座って出来るエクササイズ」「シニア合唱部」は、当初の予定よ

			スワークショップ 「Hip Hop Dance!」 を実施。	りも多くの地域の方々に参加していただき、需要のある企画であることが分かった。次年度も健康をテーマにしたワークショップを引き続き開催していきたい。 □ 昨年のオープンデーにて実施したダンスワークショップを連続講座として実施。集客に悩まされたが、少人数で一人一人じっくり指導できる環境に保護者からは好評をいただいた。講座終了後は講師が主催するダンス教室に通う結果となり地域貢献につながったと感じる。
その他・シーズン企画				
	＜その他・シーズン企画＞ □ 空き施設の有効活用を目的とした企画を設ける。	□ 施設の有効活用と収入向上のため、既存イベントであるホールの時間貸し（ピアノ練習）を引き続き実施していく。	□ 「ホールでピアノを弾いてみませんか？」を継続。	□ ホールの空き状況で実施している企画であることが利用者に伝わっておらず、会場のリクエストが増えたが、新規利用者も毎月徐々に増えており、次年度は、この企画止まりの利用者を施設利用につながるよう努力していきたい。

(2) 地域コミュニティの形成・社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）の推進

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
● 地域内の対象施設へダイレクトアプローチを行い、隠れた需要の掘り起こしに務める。	□ 地域を絞り、カフェやケアプラザ、地域公共施設へアウトリーチ活動の宣伝資料を配布し、「要請」を受けてから企画提案を行う「受注型」だったアウトリーチから、より積極的な「企画開発型」へと進化させ、新規アウトリーチ先を増やしていく。	□ 前年度ご依頼頂いた施設からは引き続きご依頼頂き、継続関係が続いている。	□ 関係性ができている施設には、アーティストの選定も含め趣旨にあったアーティストを派遣。また今年度は他館にアーティスト紹介し合うこともあり、施設間の関係性を深めた。
● 未就学児（特に未就園児）とその親の活動の場としての需要をさらに広げ、地域コミュニティの形成へと繋げていく。	□ 未就学児や小学生の子を持つ親に、サンハートを情報収集の場として「認識」してもらえよう、チラシ配架棚をより見やすいレイアウトにしたり、各種 SNS で未就学児向けの情報コンテンツを取り扱っていき、保護者が情報の渦に飲み込まれない土台作りを行う。 また、保護者にヒアリングを行い、今地域で求められていることの情報収集し、事業に反映していく。	□ SNS での情報発信のほか、横浜市内の子育て支援施設へのチラシ配架にも力を入れた。	□ SNS で情報発信を重ねていくと、子育てアカウント（近隣の子ども向けイベントや育児の情報発信をしているアカウント）にイベントを取り上げてもらうことが増え、周知されるようになった。次年度も引き続きリール動画の作成に挑戦していく。

(3) 市民協働、市民主体の活動の支援、地域人財育成及び文化的コモンズ形成の牽引

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[実施状況]
●ともに作る：「あさひ名画座委員」の仕組みを継続する。	□ あさひ名画座委員には、既存のイベントの他に新規企画の立ち上げを依頼し、新たな顧客層の開拓へとつなげていく。	□映画は、全 5 本上映し、お客様のニーズに合う映画選定を行った。	□旧作のほか、ドキュメンタリーや横浜出身俳優の作品など幅広いものを上映し、好評をいただいた。1日2本上映よりも1日1本で開催を増やしてほしいという声が多くあったことから次年度は、従来の形に戻し、引き続きお客様のニーズに合った作品を届ける。
●ともに育つ：サンハート主催事業から派生した取り組みについて、地域文化に大きく寄与する活動を「共催事業」と位置付け、独自の運営サイクルを確立するまで積極的に支援する。	□ アウトリーチに関して、自主事業担当者の立ち合いがなくとも開催施設に訪問できるようにしていく。	□事前に聞き取り調査を丁寧に行い実施。	□若葉台地区センターのおはなしかいは、今年も立ち合いなしで開催実施。定期的に依頼のある施設に関しては立ち合い不要で引き続き開催出来る様な組織作りをしていく。
●ともにつながる：サンハートが地域のためにできることを、利用者・市民・地域・関連団体等でともに検討し、地域課題を解決するアイデアを事業化するプロジェクトを、サンハートが主体となって、地域をリードし推進する。	□ 若い世代をサンハートの利用者として取り込んでいくため、未就学児向けのイベント時に、保護者に対してアンケートや意見交換の場を設け、館としての課題を浮き彫りにしていく。	□ 各主催事業後には、アンケートを実施し、常にお客様がどんなことを求めているかの収集を行った。	□ リトミックを実施した際、集客があったことから、需要があることが分かり、次年度の未就学児向けイベントには、リトミックから一歩前進企画と題し「プレピアノワークショップ」を実施する方向でいる。 □ 次年度の企画選定もアンケートを元に行っており、新規客層だけでなく普段から当館の催し

			に参加している方々にも満足いただける企画に努めていく。
--	--	--	-----------------------------

3 施設の運営に関する計画

(1) 顧客満足度の向上について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[実施状況]
●利用者サービスのさらなる向上に努め利用者ニーズに合わせたサービスを増やす。	□施設利用者の発表会を広報支援し、直近の諸室の空き状況をホームページの SNS に発信する等により顧客満足度を向上させる。	□昨年度に引き続き、SNS に直近の空き室状況を毎週更新した。	□気軽に空き室状況を確認できるという点から、直近の利用が以前よりも増加傾向にあると実感している。来年度も引き続き更新を続け、利用率向上を図る。
●アンケートやヒアリング等から区民・利用者のニーズを的確に把握する。	□各年実施の利用者アンケートや自主事業等の来館者アンケートをはじめ、ヒアリングの随時実施と年 1 回利用者懇話会を開催して、ご意見・ご要望を的確に把握しサービス向上に努める。	□利用者懇話会は、音楽ホールを定期的に利用して下さる区内の高校の O B 団体に依頼した。	□当館の設備や運営を中心に話を進めていった。サークル団体の利用者から直接話を伺えて大変参考になった。また広報や案内板などの意見についても伺うことができた。
●サンハート友の会を継続し、会員へのサービス向上と共に強力なサポーターとしての関係作りを図る。	□改めてサンハート友の会の会員登録を行い、会員からの声を次年度の事業へ反映させる等施設のサポーター的存在として会の運営を行う。引き続きジョイナステラス各店舗と連携するなど会員特典の充実等を図り、会員数増をめざす。	□会員特典の依頼の充実化を図る為、ジョイナステラスとの連携が更に綿密に取れるよう打ち合わせ等開催した。 □昨今の情勢により、会費を 1,300 円から 1,500 円に値上げを実施。会員特典として会員割対象公演を追加	□ジョイナステラスとの連携を取るよう努力したが、店舗協力に賛同した店舗は昨年に比べ大幅に減少した。次年度は、他の形でジョイナステラスと協力できる形を模索していく。 □会費の値上げにより、長年継続していた会員の退会が目立ったが、会員割を当てとした新規入会も多く、会員

		するなどサービス内容の改定を併せて行った。	の増減の激しい年度となった。次年度も引き続き友の会の入会メリットを発信し、会員数を増やせるよう努めていく。
--	--	-----------------------	---

(2) 的確な施設提供の実現について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
●効率的且つ安定した施設の開館・運営を行う。	□開館日数 345 日 休館日 14 日 年末年始 12 月 29 日～1 月 3 日 施設点検・消防設備点検 14 日	□開館日数 344 日 休館日 14 日 臨時休館日 1 日 年末年始 12 月 29 日～1 月 3 日施設点検・消防設備点検 14 日	□臨時の休館により 1 日少ない 344 日の開館となった。また、施設点検・消防設備点検は計画に沿って実施することができた
●利用者アンケートや利用者懇話会からの声を基に満足度向上・利用促進を図る。	□様々な媒体を活用し、施設のPRを充実させ稼働率向上に努める。	□アンケート収集や利用者懇話会からの声を積極的に取り入れた。	□アンケートや懇話会に限らず、日々利用者から届く声にも対応を実施した。
●施設利用者へ専門的な利用方法等効果的なアドバイスをを行う。	□舞台技術を含め、専門性をもった職員が常駐して、利用者からの相談・下見・利用打合せをはじめ、トラブル等緊急時にも迅速に対応する。	□舞台技術(音響・照明)の専門職員が常駐し利用者の相談に丁寧に応えると共に、利用時もきめ細かな対応を実施した。	□舞台技術担当職員の対応に多くの利用者から高い評価をいただけた。
●周辺施設と連携して地域全体の賑わい作りに貢献する。	□ジョイナステラス1・2・3、二俣川駅周辺商店街、二俣川駅、並びに相鉄線駅との連携事業を展開していく。	□相鉄ビルマネジメントが主催にて実施するジョイナステラスの文化イベントの会場協力を実施した。相鉄ビルマネジメントから当館のイベントに対し協力をいただいた。	□今年度は、イベント参加者を対象に、ジョイナステラス1・2・3にある飲食店で使用可能なお食事券の配布や、来場者特典の配布など近隣施設ににぎわいを持たせることができた。
●施設を有効活用し、施設の魅力作り・活性化を図る。	□参加のハードルが低いワンコインコンサートを引き続き実施するとともに、施設の有効活	□ワンコインコンサートのほか、映画上映や未就学児向けイベントなど気軽に参加し	□昨年に比べ前売りチケットの売れ行きに悩まされることが多かったが、当日気軽に

	用を図る。	やすい価格帯で提供。	参加できる価格ということもあり、当日券の購入が目立った。
●利用者へ施設の諸室の空き情報をリアルタイムで広く発信する。	□直近の諸室の空き情報を更新し、ホームページの SNS に発信すると共にホームページから予約システムの予約状況にリンクしている。	□横浜市市民利用施設予約システムの変更に伴い、館内への空き室情報の掲示ができなくなったため、SNS で情報発信した。	□SNS での空き室状況の更新は通常利用者だけでなく、新規で利用を検討する方も多くみられた。

(3) 的確な広報の展開について

[取組内容] ●地域・区民の文化芸術情報発信拠点としての役割を担う。	[達成指標] □情報コーナーでは、文化芸術の資料として類似の他施設情報の紹介を行うなど文化芸術情報を得る事ができるよう整備する。	□チラシラックの整理を行い、より見やすくお客様に情報が届く様工夫した。 □相鉄線沿線の改札やジョイナステラス内へ催し物案内やイベントチラシの配架を行い、近隣の方にも館の情報が届くよう工夫した。	□横浜市の区民文化センターに関しては専用ラックを作成し、市内の情報を分かりやすく届ける他、親子向け公演・美術・映画・落語などジャンル毎にラックを配置し、以前よりも情報が届きやすい環境作りをした。 □昨年より配架をしている、ジョイナステラス館内では、買い物ついでに催し物案内やチラシを手にとっていただくことが多く、サンハートの存在の周知だけでなく、イベントへの集客につながった。
●情報の内容により、最適な媒体・手段により、効率的な広報・宣伝活動を実施する。	□毎月の催し物案内発行、ホームページのリアルタイムな更新をはじめ、当事業体ならではの媒体（交通広告・広報紙等）	□毎月発行の「催し物案内」では、発表系施設の催しや自主事業などの情報を、分かりやすく掲載するよう、工夫した。人	□催し物案内に掲載している発表系の催しは誌面のほか、ホームページでの掲載を継続。次年度より窓口にて委託販売をし

	を有効に活用しPRを行う。	気プログラムの申し込みを電子化した。	ている催しについても掲載を行う。 □昨年に引き続き、人気プログラムは電子化を継続。電子化により利用が増えると共にリアルタイムでの更新に心掛けていたため、すぐに申込が埋まる状況となった。また、当日キャンセル回避に繋がり収益向上にも寄与した。
--	---------------	--------------------	---

(4) 専門性と区民の力を統合する組織づくりについて

[取組内容] ●事業企画・施設管理・舞台技術の経験・実績豊かな職員・専門スタッフ と、区民をはじめとした地域スタッフを配置し、全ての職員が適切なコスト感覚、効率的な管理とホスピタリティ精神をもった運営を行う。	[達成指標] □以下の通り人員を配置し運営する。 【運営スタッフ】※2交代、常時2名以上配置 館長 1名 副館長 1名 職員 5名 【舞台技術】※利用状況により2～4名 職員 4名 【受付スタッフ】 カルチャースタッフ15名（地域採用）	[実施内容] □【運営スタッフ】 ※2交代 常時2名以上配置 館長1名・副館長1名・職員5名 【舞台技術者】 職員4名 ※利用状況により1～3名にて対応 【受付スタッフ】 カルチャースタッフ18名 総勢29名のスタッフが常時5名以上で運営	[達成状況] □運営スタッフ7名、舞台技術者4名、受付業務に習熟したカルチャースタッフ18名との相互協力により円滑で効率的な管理運営を実施した。
●職員・スタッフの施設運営スキルアップのために研修を実施する。	□機材研修、個人情報保護研修、消防訓練等を実施し、運営に役立てる。	□消防・防災訓練、帰宅困難者一時滞在施設開設マニュアル、個人情報保護研修等を実施した。	□消防・防災訓練、帰宅困難者一時滞在施設開設マニュアル、個人情報保護研修を実施した。研修に参加することにより管理運営面のスキルアップに

			努めた。
--	--	--	------

4 施設の管理に関する計画

利用者が安心して利用できるよう快適な環境作りを目指し、安全性、防犯性について最大限の配慮をする。サンハートは開館から 35 年を経過することになり、設備全体が老朽化してきている。出来ることが限られる中で、施設の運営に支障をきたさぬよう維持管理に努めていた。

(1) 安全で効率的な維持管理・予防保全について

[業務内容]	[達成指標]	[実施内容]	[実施状況]
●安全・安心できる施設の維持	□設備等保守管理項目を遵守し、定期的な施設点検を実施する。	□建築物点検マニュアル、建築物定期報告に準拠した点検を実施した。	□二俣川駅北口共同ビル設備係協力のもと、安全な施設の維持ができた。
●定期的な設備点検	□老朽化した建築、設備のリスクマネジメント評価を行い、修繕計画の適正化を図る。	□定期点検の結果をもとに修繕計画を見直し、施設・設備の破損・汚損・故障などの発生に際しては迅速に対応した。	□施設・設備の定期点検を実施し、安全な施設の維持ができた。
●必要に応じた緊急点検	□月 1 回の定期的な施設点検の他に、建築物点検マニュアルに準拠した点検及び、建築物定期報告に準拠した点検を年 1 回行う。	□建築物点検マニュアル、建築物定期報告に準拠した点検を実施すると共に、施設・設備の破損・汚損・故障などの発生に際しては迅速に対応した。	□施設・設備の修繕すべきところを必要性・緊急性に応じて対応できた。
●施設設備の予防保全	□施設設備等の中長期修繕計画や修繕・改修について、早めに施設情報を提供し、関係各所に働きかけるとともに、利用受付・打ち合わせ時に利用者に備品や設備の正しい取り扱いを説明し、安全で確実な利用を促進する。	□修繕・改修について、早めの情報提供、関係各所への手配を実施した。また、備品や設備の取り扱い・注意事項の資料作成、掲示をした。	□日々の状態確認や専門業者による定期保守点検の結果をもとに、修繕計画の見直しや、緊急性の高いものから情報提供し、修繕・改修を要望できた。

(2) 快適な環境の維持管理について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[実施状況]
●安心できる環境の維持	以下 7 点を達成指標とする。 ①清掃項目一覧及び清掃内容一覧を遵守し、日常・定期清掃を実施する。 ②美観を維持するように取り組む。 ③環境に配慮し、廃棄物の発生抑制に努める。 ④空気環境測定（VOC 等含む）を実施する。 ⑤社内による、業務の品質管理点検を実施し、特別清掃・日常清掃の計画を策定する。 ⑦ヨコハマ 3R 夢など市の施策や事業に協力する。 ⑦空気環境測定結果の報告書を作成する。	①日常清掃、定期清掃を計画どおり実施した。 ②職員・スタッフ全員が常に整理整頓を心がけ、快適に利用できるように努めた。 ③⑥館内にはゴミ箱を設置せず、ご利用者にはゴミの持ち帰りを促した。受付カウンターおよび事務室内のゴミについて減量化に努めると共に、ゴミ分別を徹底した。 ④⑦空気環境測定を 2 ヶ月に 1 回（奇数月）実施し、報告書を作成した。 ⑤2 ヶ月に 1 度、工房内機器、倉庫内の点検日を策定。	①②清掃に加え、常に整理整頓を実施し、快適な環境保持と美観の維持ができた。 ③⑥ゴミ箱の撤去により、ゴミの減量化に対する来館者の意識を高めると共に、有料ゴミ袋を利用する利用者には細かなゴミ分別にご協力いただき、確実に実施できた。 ④⑦定期的に実施することにより、安心してご利用いただける環境づくりができた。 ⑤不具合の早期発見や損壊部品の交換等行えた。

その他の計画

(1) 危機管理対策について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
●緊急時の対応	□緊急内容別（事故、犯罪、火災、設備故障など）に連絡網の整備を行う。	□緊急時連絡網を整備・作成し、旭区に提出した。	□人事異動の都度名簿を作成したため、緊急時には遅滞なく対応を図ることが出来た。
●利用者の安全・安心を確保	□大規模災害等が発生した場合は、行政機関との連絡・協力を円滑に行えるよう訓練等を通じて体制を	□災害訓練の一環として通報訓練を行った。	□緊急時に円滑に機能するよう、全職員・スタッフが災害対策訓練に参加した。

	整える。		
●防災・防犯管理	以下 6 点を達成指標とする。 ①平成 24 年度に作成した「帰宅困難者一時滞在施設」としての運用マニュアルに基づき訓練を実施し、緊急時に備える。 ②緊急時の連絡網を作成するとともに旭区役所へ提出する。 ③近隣在住職員を引き続き確保する。 ④事故、犯罪及び火災等を発生させない為に、職員・ビルの警備員による定時巡回を実施する。 ⑤消防計画書を作成し、自衛組織を結成することで、日常の防火・防災に努める。また、催事の際は、避難導線の確保等の指導を行うとともに、消防計画書および緊急時対応マニュアルに基づき年 2 回防火・防災訓練を実施する。	①「帰宅困難者一時滞在施設」としての運用マニュアルに基づき研修を行なった。 ②人事異動があった際は、連絡網を都度更新・提出した。 ③当館職員およびスタッフは、相鉄線沿線在住者を中心に採用し、万が一の際に迅速な対応ができるよう備えた。 ④防災センター警備員による定時の巡回に加え、随時当館職員・スタッフが館内を巡回し、異常を早期発見・早期対処できるよう努めた。 ⑤消防計画書を作成し、日頃より防火・防災に努め、安全確認のチェックを日々行った。また、催事の際には利用団体の責任者に対し、事前に避難誘導確保についての指導を行った。	①帰宅困難者一時滞在施設」としての運用マニュアルに基づき研修を行ない理解を深めた。 ②職員は常に最新の連絡網情報を得ており、有事の際はこれに基づき対応するよう周知徹底を図った。 ③ 受付カルチャースタッフ 18 名と職員 5 名は、旭区在住ないし相鉄線沿線在住者で構成されている。 ④各職員・スタッフが適宜館内を巡回および事務室内モニターにて各室場内を確認し、安全・安心の確保に努めた。 ⑤消防計画書を作成し、防災訓練を実施した。全体が一同に会して訓練を実施することにより職員・スタッフの意識を高め、緊急時に迅速・的確な対処ができるよう備えた。

	⑥所轄の旭警察署に協力を得て防犯訓練を実施する	⑥ 旭警察署生活安全課へ講師の派遣を要請し防犯に関する講義を受けた	⑥ 警察官より具体的な防犯に関する講義を受けスタッフの防犯意識を高められた
--	-------------------------	-----------------------------------	---------------------------------------

(2) 自己評価・PDCAサイクルの活用について

[取組内容] ●日報及び月報の作成・管理（業務記録の整備）	[達成指標] □業務記録の適正な作成・保管と共に重要な件に関して随時報告をおこなう。	[実施内容] □日々の業務内容を業務管理日誌、舞台業務日報、業務週報に記載し、情報の共有と周知を図った。	[達成状況] □業務管理日誌、舞台業務日報を通じて日々の業務に関する職員間の情報共有の徹底に努めた。また、受付スタッフに対しては常用連絡ノートおよびミーティング議事録の回覧などを用いて情報共有、連絡強化を図った。
●業務計画書及び業務報告書の作成・管理（利用者のニーズや声を反映した業務計画の策定）	□PDCAサイクルの推進とともに重要な件に関して随時報告出来る体制づくりに取り組む。	□寄せられた意見を盛り込みつつ「令和7年度事業計画書」および「令和6年度業務報告及び収支決算」を作成し旭区役所に提出した。	□事業計画書及び事業報告書は旭区役所のホームページに掲載され、利用者が閲覧することが出来た。
●モニタリングの実施（モニタリングへの対応・体制の整備）	□業務記録の一元管理によるモニタリングへの対応・体制を構築する。	□月報の形式で月毎の運営管理報告を作成し、毎月旭区および四半期毎に共同事業体への報告を行った。	□モニタリングは運営管理業務実績の報告及び業務に関する打合せを実施し、施設・旭区と情報共有、協力体制の構築を図った。
●自己評価の実施（PDCAサイクルの導入と確実な運用）	□利用者アンケートの結果や利用者の声を、常に自己評価に反映させながら施設運営に取り組む。 □自主事業イベントの参加者・来場者に向	□毎月定期的に運営・技術職員が参加する、全体ミーティングを実施した。	□職員各々が報告・確認・提案などを行い、施設の運営管理および自主事業実施にあたっての問題を検討しながら最適な選択を行った。

	けたアンケート集計結果をもとに事業担当会議を行い、今後の事業計画内容に反映出来るものは取組む。		
--	---	--	--

6 収支について

(1) 経費削減の努力について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
●管理運営コストの削減に努める。	以下の3点を達成指標とする ① 無駄な光熱水費の削減 ② SDGs の観点からもチラシ等の印刷関係費を可能な限り削減し、SNSでの積極的な展開 ③ 予防保全の考え方に基づいた計画的な修繕、日常点検により不具合や破損等の早期発見による修繕費の低減	□館内照明や冷暖房のこまめなオン・オフを行い光熱費の削減に努めると同時に、当館常設の楽器類のメンテナンスにおいては極力職員により軽微な修繕を実施し削減に努めた	□管理費の光熱費は高騰が予見されていたが範囲内で抑える事が出来た。事務費は物価高騰の影響はあったが新たに発生したオンラインキャッシュレス関係の費用の増額だけに収まった。人件費は効率よく業務を行っていたが最低賃金の上昇等の政策的な処置や社会的な影響で予定より費用が掛かった。

(2) 収入向上の努力について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
●事業収益向上、規制緩和による新規利用層の獲得	以下3点を達成指標とする。 ① 幅広い世代の利用者を獲得する為にジャンルを広げた自主事業による収入増を見込むと共に貸館利用層の拡大を目指す ② まだ利用率向上の余地がある諸室の	① 子ども向けの人気プログラムやワークショップの積極的な開催や地域ボランティアの活動による「おはなし会」を積極的に展開した。 ② アートギャラリーの貸出期間について	① 子供向け対象の人気プログラムや様々なターゲットに向けた幅広い参加型催事やワークショップの実施により増員増向が継続して見られた。 ② アートギャラリー貸出期間の上限を1

	利用規則の緩和や見直しを横浜市・旭区と共に検討し柔軟な対応により新規利用者層の獲得を目指す ③ 諸室の空き状況をホームページにてリアルタイムに公開し、収益の向上を図る	て利用者様の声を基に改定を検討した。 ③ホームページ上に横浜市市民利用施設予約システムのリンクを貼り確認を出来るようにした。また、SNSで情報発信した。	週間から2週間に変更し令和8年度より申込受付開始とした。 ③ SNSでの空き室状況の更新は通常利用者だけでなく、新規で利用を検討する方も多くみられた。
--	---	--	---

(3) 収支予算書

項 目	予算額	決算額	増減額	備 考
収入				
指定管理料収入	118,999,000	118,999,000	0	
利用料金収入	28,500,000	29,301,120	△801,120	
事業収入	6,000,000	6,892,375	△892,375	
横浜市リスク分担		4,528,000	△4,528,000	賃金、物価水準変動分
横浜市費用負担		452,228	△452,228	キャッシュレス手数料
その他収入	1,240,000	867,965	372,035	
収入合計	154,739,000	161,040,688	△6,301,688	

支出				
人件費	76,568,000	79,338,790	△2,770,790	
事務費	5,290,000	5,350,343	△60,343	
事業費	7,000,000	5,719,573	1,280,427	
管理費	62,550,000	58,819,442	3,730,558	
公租公課	12,000	2,800	9,200	
事務経費	3,319,000	3,319,000	0	
支出合計	154,739,000	152,549,948	2,189,052	
収支差額	0	8,490,740		

【自主事業一覧】

(税込／単位：千円)

分類	実施時期	事業タイトル	会場	事業内容	入場料・受講料	入場者数
鑑賞	計3回 4・9・1月	あさひ亭まね き寄席	ホール	著名な真打や若手落語家による公演。落語だけではなく色物も加え、バラエティに富んだ演目で動員を図る。ネームバリューのある出演者の出演を予定。	5月・1月 一般2,000円 高校生以下1,000円 ペア券3,500円 9月 一般3,500円 高校生以下2,500円 ペア券6,500円	5月 205名 9月 278名 1月 183名
鑑賞	11月	気軽に寄り道 コンサート	ホール	仕事帰りに立ち寄れる19時以降に開催する大人のためのコンサート。ピアノとウクレレによるジャズを開催。	① 一般1,000円 未就学児500円 ② 一般1,500円 高校生以下1,000円	① 13 2 名 134名
鑑賞	6月・1月	サンハート記念 コンサート	ホール	開館35周年を迎え、目玉になる演奏会を計画。「藤子・F・不二雄コンサート」と「三味線コンサート」を予定。	今井亮太郎・大橋エリ 一般2,000円 高校生以下1,000円 ペア券3,500円	今井亮太郎 119名 大橋エリ 92名
鑑賞	4・6月	最優秀賞受賞 者記念コンサート	ホール	アンサンブルコンクールにて最優秀賞を受賞した組による、良質なクラシックコンサート。また過去参加者がミュンヘン国際コンクールに出場を記念し、凱旋公演を行う。	一般1,000円 高校生以下800円	4月 213名 6月 114名
鑑賞	計1回	ワンコイン コンサート	ホール	アンサンブルコンクールにて優秀賞を受賞した組による、大人向け公演1回のみのコンサート。低価格なチケット料金に設定し、誰もが気軽に音楽に触れられる機会を提供する。	500円	160名
鑑賞	11月	アンサンブル コンクール	ホール	今年から出場部門を増やし、コンクールに参加組数の増枠を狙う。入賞者は主催事業での出演機会提供の	1組5,000円	6組

				他、アウトリーチ事業への派遣アーティストとして、積極的に発信していく。		
交流	計 8 回 学校 4 回 福祉 1 回 その他 3 回	アウトリーチ	旭区内各所	小学校へアーティストと共に訪問する学校プログラムの他、福祉施設や保育園等へ、出前コンサートやワークショップをお届けする。コンクール受賞者への演奏機会提供の場も兼ねている。		保育園 1 小学校 3 地区センター 13 高齢者施設 1 その他 1
交流	月 1 回	おはなしかい	ホール	未就学児とその保護者を対象とした絵本の読み聞かせ会。サンハートの読み聞かせ講座を修了した「読み聞かせサポーター」が企画運営を担当する。絵本の読み聞かせを通じた地域貢献を目指す。	無料	延べ 289 名
交流	通年	すくすくキッズプログラム	ホール	未就学児の中でも特に乳幼児を対象に、リトミック講座を通年開催する。またイベント時期にあわせ、未就学児親子対象向けクリスマスコンサートを実施。また、親子で楽しめるマルシェを規模拡大しホールで開催。	コンサート 7 月 一般 2,000 円 中学生以下 1,000 円 未就学児 500 円 ペア券 3,500 円 12 月 一般 1,000 円 未就学児 500 円 リトミック 親子 1 組 1,000 円	コンサート 7 月 177 名 12 月 114 名 リトミック 延べ 498 名
交流	7 月・8 月	夏休み子供体験講座	ホール／ミーティング／アートギャラリー	小学生向けに夏休み期間に、充実したプログラムを提供する。今回は、音楽鑑賞会、美術講座、科学捜査体験を実施。	参議院選挙期日前投票の関係で実施なし。	0 名
交流	計 6 回 7 月・10 月・2 月	あさひ名画座企画委員	ホール	映画イベントに特化した企画・運営を行っていただく。1 日 2 本上映、平日夜の上映を初の試みとして行う。	一般 1,000 円	6 月 130 名 11 月 ① 88 名 ② 128 名 2 月

						① 94 名 158 名
創造	4 月～6 月	ゴスペルワーク ショップ	ホール	講師にゴスペルスパ ークル率いる「金井恵 莉花」を迎え、幅広い 世代を集めたワーク ショップを開催する。 親子で参加出来るク ラスを新設。初心者で も参加しやすい開か れたワークショップ を目指す。	一般 10,000 円 U24 8,000 円 発表会・スパー クル観覧は無料	1 部 26 名 2 部 24 名 発表会観覧 89 名 スパークル観 覧 157 名
創造	通年	小規模ワーク ショップ	カルチャ ー工房/ ホール	サンハートが地域の 方々のサードプレイ スになるよう小規模 ワークショップを複 数開催し、「交流の場 ＝サンハート」の図式 が定着できることを 目標とする。今年度は 「ヨガ」「エクササイ ズ」「合唱」「キッズヒ ップホップダンス」を 予定している。	ヨガ 2,000 円 エクササイズ 600 円 合唱 1,200 円 ダンス 9,000 円	ヨガ 12 名 エクササイズ 延べ 341 名 合唱 延べ 394 名 ダンス 7 名
創造	通年	ホールでピア ノ	ホール 音楽ホー ル	サンハートのホール・ 音楽ホールのフルコ ンサートグランドピ アノを 1 時間単位で試 弾できる企画。	1 枠 2,500 円	延べ 345 名
	通年	サンハート友 の会		固定顧客層への優遇 体制を整え、顧客満足 度向上を図る。	1,500 円	52 名
	通年	備品購入 郵送費		自主事業に必要な備 品購入費や、他館への チラシ発送費など。		
	通年	取材・打合せ諸 経費		その他諸経費		

令和7年度 「旭区民文化センター」 収支予算書及び報告書

収入の部						(税込、単位：円)
科目	当初予算額	補正額	予算現額	決算額	差引	説明
指定管理料	118,999,000		118,999,000	118,999,000	0	横浜市より
利用料金収入	28,500,000		28,500,000	29,301,120	801,120	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	420,000		420,000	420,000	0	プラットフォーム事業
自主事業収入	5,580,000		5,580,000	6,472,375	892,375	
横浜市によるリスク分担				4,528,000	4,528,000	物価や賃金水準の変動
横浜市による費用負担				452,228	452,228	キャッシュレス決済導入における横浜市費用負担
雑入	1,240,000	0	1,240,000	867,965	372,035	
印刷代	180,000		180,000	96,720	83,280	
自動販売機手数料	460,000		460,000	221,465	238,535	
駐車場利用料収入	0		0		0	
その他（ ）	600,000		600,000	549,780	50,220	
収入合計	154,739,000	0	154,739,000	161,040,688	6,301,688	
支出の部						
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	76,568,000	0	76,568,000	79,338,790	2,770,790	
給与・賃金	76,568,000		76,568,000	79,338,790	2,770,790	
社会保険料			0		0	
通勤手当			0		0	
健康診断費			0		0	
勤労者福祉共済掛金			0		0	
退職給付引当金繰入額			0		0	
事務費	5,290,000	0	5,290,000	5,350,343	60,343	
旅費	50,000		50,000	33,377	16,623	
消耗品費	350,000		350,000	350,000	0	
会議随い費	20,000		20,000	11,120	8,880	
印刷製本費	900,000		900,000	907,820	7,820	チラシデザイン・印刷他 広告宣伝関係費
通信費	800,000		800,000	349,130	450,870	
使用料及び賃借料	170,000	0	170,000	122,760	47,240	目的外使用料
横浜市への支払分	170,000		170,000	122,760	47,240	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	1,190,000		1,190,000	1,317,632	127,632	
図書購入費	156,000		156,000	156,000	0	
施設賠償責任保険	330,000		330,000	329,620	380	ハンドヘル保険料含む
職員等研修費	80,000		80,000	15,000	65,000	
振込手数料	4,000		4,000	4,000	0	
リース料	1,240,000		1,240,000	1,278,156	38,156	コピー機他
手数料	0		0	475,728	475,728	
地域協力費	0		0		0	
事業費	7,000,000	0	7,000,000	5,719,573	1,280,427	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	910,000		910,000	910,000	0	アウトリーチ事業等
自主事業費	6,090,000		6,090,000	4,809,573	1,280,427	
管理費	62,550,000		62,550,000	58,819,442	3,730,558	
光熱水費	17,226,000		17,226,000	13,864,556	3,361,444	
電気料金	9,090,000		9,090,000	7,813,583	1,276,417	
ガス料金	5,736,000		5,736,000	4,291,988	1,444,012	
水道料金	2,400,000		2,400,000	1,758,985	641,015	
清掃費	7,775,000		7,775,000	7,853,750	78,750	日常・定期清掃
修繕費	2,560,000		2,560,000	2,029,813	530,187	
機械整備費	2,338,000		2,338,000	2,316,000	22,000	
設備保全費	32,651,000		32,651,000	32,755,323	104,323	
空調衛生設備保守	3,250,000		3,250,000	3,250,480	480	
消防設備保守	0		0		0	
電気設備保守	4,208,000		4,208,000	4,168,417	39,583	
害虫駆除清掃保守	250,000		250,000	282,041	32,041	
駐車場設備保全費	0		0		0	
その他保全費	24,943,000		24,943,000	25,054,385	111,385	組合管理費・舞台保守費
共益費	0		0		0	
公租公課	12,000	0	12,000	2,800	9,200	
事業所税			0		0	
消費税			0		0	
印紙税	12,000		12,000	2,800	9,200	
その他（ ）			0		0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記）	3,319,000	0	3,319,000	3,319,000	0	
本部分	3,319,000		3,319,000	3,319,000	0	労務・経理等本部事務経費
当該施設分			0		0	
二一ス対応費	0		0	0	0	
支出合計	154,739,000	0	154,739,000	152,549,948	2,189,052	
差引	0	0	0	8,490,740	8,490,740	
自主事業費収入	6,000,000			6,892,375		
自主事業費支出	7,000,000			5,719,573		
自主事業収支	1,000,000			1,172,802		
管理許可・目的外使用許可収入	460,000			221,465		
管理許可・目的外使用許可支出	170,000			122,760		
管理許可・目的外使用許可収支	290,000			98,705		